

受け手を意識して表現する力を育成するための 指導方法に関する調査研究

三重県教育委員会事務局 研修推進課 テーマ研修班 研修員 生駒 富子

I 研究の目的

受け手を意識して表現する力を育成するため、学習支援ツールの作成及び指導方法を提案し、研究成果を県内の実践に広げていく。

II 研究の内容

1 情報活用能力を育成するための指導方法、教材等に関する先行研究について

先行研究や文献収集、研究会等への参加をとおして、次の4つの指導方法や教材が、情報活用能力の育成に効果的であると分かった。

- ① 情報活用型プロジェクト学習：活動に明確なゴールを設定し、児童生徒が行う探究的な学習活動
 - ② ルーブリック：児童生徒の学習到達状況を評価するための評価基準表（S、A、B、Cの4段階評価）
 - ③ シンキングツール：考えや情報を整理したり意見を共有したりするときに活用する手順や図
 - ④ メディアコミュニケーションカード：情報を主体的に集め、まとめ、伝える力を育成するためのカード
- この4つの指導方法や教材を活用することで「受け手を意識して表現する力」を育成することができる
と考え、授業実践をとおして検証を行った。

2 協力校での授業実践

(1) 実施計画

協力校の第4学年の児童（111名、3クラス）を対象に、以下のとおり授業実践を行った。

実施時期	単元
1学期	光村図書出版 小学校国語科 4年上「新聞を作ろう」全7時間 ～社会見学で学んだことを、新聞を作って5・6年生に知らせよう～
2学期	国語科、総合的な学習の時間 合科「新聞を作ろう パートⅡ」全7時間 ～三重県のお土産新聞を作って、プレゼンをしよう～

(2) 授業実践の考察

作成した学習支援ツール及び活動のゴール、ルーブリックを活用すれば、情報活用の経験やICTの整備環境等に関係なく、受け手を意識して表現する力の育成につながるということが明らかになった。（裏面参照）

III 成果と課題

1 成果

情報活用型プロジェクト学習では、情報の収集、整理、表現といった一連の学習活動が単元の中に位置付いているため、単元全体をとおして情報活用能力の育成を図ることができた。また、作成した学習支援ツールを活用することで、情報活用に必要なスキルを身につけさせることができた。併せて、活動のゴール及びルーブリックを取り入れることで、常に受け手を意識して活動させることができた。

2 課題

情報活用能力の育成は、全学年、全教科を通して行われるべきものである。そのため、各教科、単元でどのように情報活用能力を育成していくのかを明確にする必要がある。受け手を意識して表現する力を育成するためには、情報モラルについても理解していることが必要となる。情報活用能力の課題として挙げられている10の項目を中心に、各教科の中での効果的な指導方法について考えていきたい。

受け手を意識して表現する力を育成するための指導方法

- どの活動においても意欲的に取り組む児童の姿が見られる。
- 情報活用の経験や ICT の整備環境等に関係なく情報活用能力を育成できる。

情報活用型プロジェクト学習

導入

- ・「誰に対して」、「何のために」、「何をつくるか」を決め、児童に提示する。常に明確なゴールを確認しながら活動を進めることで、児童は受け手を意識して活動することができる。(活動のゴール)
- ・児童にループリックを提示することで、今の自分の学習状況や次にめざす目標がわかり、モチベーションの向上につながる。

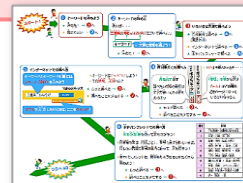
展開

情報の収集

情報活用下ごしらえ

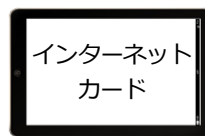
- ・調べ学習（情報の収集・整理・表現）に必要な手順・コツをまとめた下敷き。
 - ・児童からの質問が多い内容をポイントとして入れ、絵や写真を使って説明。
 - ・確認しながら学習を進めることができるように、全児童に配付。
- 主体的に調べ学習を進められ、「自分で調べた」という達成感を味わわせることができる。
- 繰り返し活用することで、情報活用のスキルの育成につながる。
- 指導方法に対する教師の困り感の軽減。授業における教師の説明時間の短縮。

学習支援ツール



情報カード

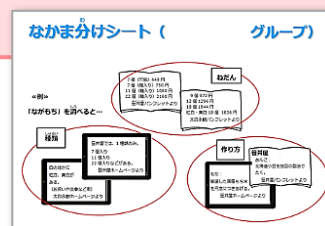
- ・調べた情報や出典についてメモをするカード。
 - ・一枚のカードに一つの情報を書く。(枚数制限はしない)
 - ・大切な部分だけを抜き出し、簡潔にまとめて書く。
- 何度も繰り返しメモをすることで、まとめる力がつく。(情報を整理する力)
- 出典を明記させることで、情報の真偽について考えさせることができる。(情報モラル)



整理・編集

なかま分けシート

- ・集めた情報カードを分類・整理するためのシート。
 - ・たくさんのアイデアをグループで整理するためのシンキングツールを活用。
- 受け手や目的に応じて、必要な内容を取捨選択する力を育成することができる。
- グループでの話し合いや記事を書く活動等、次の活動に活用することができる。



発表・発信

- ・活動のゴール、ループリックをもう一度提示することで、受け手を意識した新聞作成及びプレゼンテーションをすることができる。

まとめ

- ・振り返りとして、ループリックを活用した自己評価、相互評価を行う。相互評価の結果をもう一度、児童に返すことで、受け手によって伝わり方や感じ方が違うことに気づかせることができ、確実に伝わる方法について考えさせることができる。

次の授業の導入につなげる